

## 2009 年度秋季大会の告示

### I. 大会の案内

1. 期 日
 

11月25日(水)～27日(金)

懇親会  
第3日(11月27日)  
午前:口頭,ポスター  
午後:口頭
2. 会 場
 

アクロス福岡  
〒810-0001 福岡市中央区天神1丁目1番1号  
<http://www.acros.or.jp/>
3. 研究発表
 

気象学に関する学術成果の研究発表を募集します。研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参照下さい。
4. 大会日程
 

大会は以下の日程で行われる予定です。

第1日(11月25日)  
午前:口頭  
午後:口頭,ポスター

第2日(11月26日)  
午前:口頭  
午後:授賞式,受賞記念講演,シンポジウム,
5. シンポジウム
 

大会第2日(11月26日)の午後に開催予定です。テーマは「東アジアの大気環境」です。
6. 懇親会
 

大会第2日(11月26日)の夕刻に、アークホテル博多ロイヤル(福岡市中央区天神3丁目13-20)にて開催予定です。
7. 大会ウェブサイト【2009年6月8日(月)開設予定】
 

本大会では、講演申込み受付や大会プログラムの掲載などを行うための大会ウェブサイト、2009年6月8日(月)より開設する予定です。URL等の詳細につきましては、気象学会ホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/msj/>)をご参照下さい。

### II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法
 

原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。オンラインで予稿原稿を送付できない場合や、クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など、止むを得ない事情がある場合は、郵送による申込を受け付けます。

なお、大会参加登録・参加費支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意ください。
- 1.1 オンラインによる申込
  - ・申込開始:2009年7月14日(火)
  - ・締切:2009年8月18日(火)15時(日本時間)
  - ・大会ウェブサイトを参照し、指示に従って申し込みをして下さい。
  - ・大会ウェブサイト上で最初に個人情報とID・パスワードの登録を行います(前回のID・パスワードはそのまま利用することはできません。お手数ですが、改めて個人情報とID・パスワードの登録を行って下さい)。このIDとパスワードによって登録システムにログインし、大会参加登録・講演申込・予稿送付・大会参加費決済などを行います。
  - ・個人情報とID・パスワードの登録は講演者本人が行ってください。登録された個人情報と異なる氏名・所属での講演申込はできません。

- ・講演申込の前に、予め大会参加登録と大会参加費の払込(クレジットカード決済)を行って下さい。大会参加登録と大会参加費の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式はPDF(容量の上限は1MB)に限ります。
- ・講演申込み締め切り(8月18日(火))までは、ウェブサイト上において、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。

## 1.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2009年8月11日(火)必着  
(オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意下さい。)
- ・以下の3点を講演企画委員会事務局(下記)までお送り下さい。
  - ① 予稿原稿
  - ② 講演者氏名(漢字とローマ字)、会員番号、講演種別、連絡先(住所・電話番号・E-mailアドレス)、講演題目、主・副キーワードと、使用機器を書いたもの(様式は自由です。)
  - ③ 郵便振替払込受領証(次項参照)
 送付先：  
〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1  
気象研究所予報研究部内  
気象学会講演企画委員会事務局  
(封筒の表に「講演申込」と朱書して下さい。)
- ・講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって大会参加費を納入して下さい。
  - 一口座番号は「00130-3-5958」、  
加入者名は「日本気象学会」です。
  - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
    - ①「2009年度秋季大会参加申込」と明記
    - ②会員番号(非会員の場合は「非会員」と明記)
    - ③大会参加種別(講演者Aまたは講演者B)
    - ④大会参加費金額
    - ⑤懇親会費金額
    - ⑥合計金額

- －「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
- －払込料金は本人負担でお願いします。

## 1.3 講演のキャンセルについて

- ・講演申込み後は、講演のキャンセルはできません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・懇親会費は返却いたしませんのでご注意下さい。
- ・大会当日に講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会(kouenkikaku2009a@netsoc.jp)までご相談下さい。

## 2. 講演をしない(聴講のみ)場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン(大会ウェブサイト)による事前登録をご利用下さい。

### 2.1 オンラインによる申込

2009年10月6日(火)までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込む(クレジットカード決済のみ)。

### 2.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・2009年9月29日(火)までに、郵便振替で参加費を払い込む。
  - 一口座番号は「00130-3-5958」、  
加入者名は「日本気象学会」です。
  - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
    - ①「2009年度秋季大会参加申込」と明記
    - ②大会参加種別(聴講者)
    - ③大会参加費金額
    - ④懇親会費金額
    - ⑤合計金額
  - －「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
  - －払込料金は本人負担でお願いします。

### 2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金で支払う(当日料金は前納と比べて割高となっています)

でご注意ください。

### 3. 参加費、懇親会費

#### 3.1 大会参加費

- 大会参加費（消費税込）は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者 A	8,000 円	—
講演者 B	5,000 円	—
聴講者	3,000 円	4,000 円

- 講演者の種別：

講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）

講演者 B：講演者 A に該当しない講演者

- 講演件数が 2 件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。

#### 3.2 懇親会費

- 懇親会費（消費税込）は以下の表の通りです。
- 懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費

と同時に前納することが出来ます。また当日会場で支払うことも可能ですが、当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	5,000 円	6,000 円
学生	4,000 円	4,500 円

#### 3.3 その他

- 一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。
- 大会参加費・懇親会費の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更はいたしません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどはありません）。
- 領収書は大会当日受付で発行させて頂く予定です。
- 参加当日は、参加登録・決裁完了メールのプリントアウト等を持参いただくと、よりスムーズに受付を行うことが可能です。

## III. 予稿原稿作成要領

### 1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします。

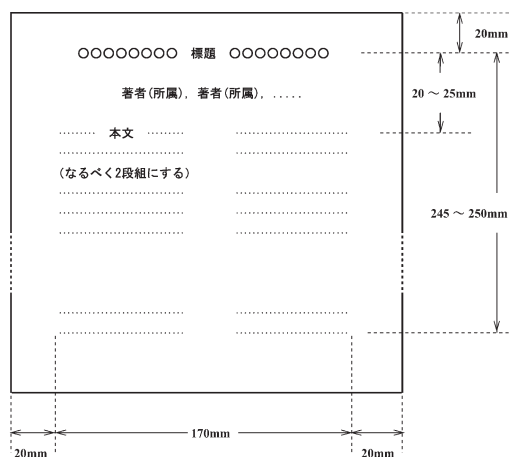
### 2. 作成方法

大会ウェブサイトから申込みをする場合のファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。郵送する場合は A4 用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けして下さい。

### 3. 印刷

原稿は B5 サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます。階調のある写真や図は、明瞭度が落ちる場合がありますので作成時にはご注意ください。特に、カラーの写真や図は明瞭度が極端に落ちる場合がありますので、予めご承知おき下さい。

### 4. 配置（付図参照）



図： A4 判用紙による予稿原稿の作成要領

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に標題、

その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に\*をつけて下さい。標題から本文までの間隔は20~25mmとして下さい。本文はなるべく2段組(左半分→右半分)にして下さい。

## 5. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は(社)日本気象学会に帰属します。

## IV. 研究発表要領

### 1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表(スペシャル・セッションを含む)とポスター発表の2種類があります。

### 2. 発表件数の制限

#### 1. 講演者あたりの発表件数は2件以内とします。

ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの2件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

### 3. 講演方法の選択について

講演方法(口頭/ポスター)につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承下さい。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行います。

### 4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

### 5. スペシャル・セッションの概要

- ・セッションの各講演の講演時間は世話人が決定し、大会プログラムに掲載します。
- ・セッションへの講演申込み締切日は一般講演と同じ(オンライン申込は8月18日(火)、郵送申込は8月11日(火))です。
- ・セッションに申し込まれた発表については、世話人が予稿を審査して、当該セッションでの発表を

認めるかどうかを判断します。

- ・セッションに申し込まれた発表が、世話人によって当該セッションに適さないと判断された場合には、一般発表に振り替えます。
- ・各セッションの詳細につきましては、「V. スペシャル・セッションのテーマと趣旨」をご参照下さい。

### 6. ポスター発表の概要

- ・ポスター発表の時間は1時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ・ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。
- ・掲示スペースは縦240cm×横120cm程度です。なお、ポスターは大きな紙1枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

### 7. 講演における機器の使用について

- ・口頭発表(スペシャル・セッションを含む)につきましては、PCプロジェクターとOHPが使用できますが、それ以外の機器は使用できません。
- ・OHPを使用したい場合は、講演申込時に届け出て下さい。講演申込時に届けがない場合はPCプロジェクターを用いた発表とみなします。
- ・PCプロジェクターを使用する場合は、以下の点に留意して下さい。
  - ーパソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター及び接続ケーブルのみを準備します。
  - ーセッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。
  - ー突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場

合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応することがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

- ・ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、講演申込み時に届け出てください。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。
- ・ポスター発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合により口頭発表に振替になった場合を想定して、口頭発表時の使用機器の届出を

お願いします。

## 8. その他

- ・申込まれた予稿の内容が、(ア) 気象学とは全く無関係である、(イ) 極めて非合理的・非論理的である、(ウ) 他者を誹謗中傷する部分がある、等の理由により、講演を認めることが適当でないとして講演企画委員会が判断した場合には、講演を認めないことがあります。
- ・大会プログラムは「天気」10月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。

## V. スペシャル・セッションのご案内

スペシャル・セッションは、あるテーマに関心を持つ会員同士が、研究分野の枠を超えて交流する機会を設けるために、1988年から始まったものです。一般の大会発表と同様、会員はどなたでも講演申込できます。

本大会では以下の6件のテーマでスペシャル・セッションが行われます。

### 1. 「地球温暖化に伴う大気海洋諸現象の変化を考えたCMIP3 マルチ気候モデル比較解析研究から」

**趣旨：**近年、地球温暖化は市民生活の中でも現実的に語られるようになり、気象・気候学に携わる者は、実際にどのような変化が身近に起きるかという問いに対する具体的な答えを社会から要請される時代になった。私たちの生活を左右する日々の天候は、温帯低気圧や台風の強さや経路、熱波や寒波、豪雨や干ばつといった、短周期の気象・海象の現れ方により大きく影響される。温暖化時にいかなる変化が起きるかという問いに対しては、このような短周期の気象・海象の将来変化についての見通しが必要である。本スペシャル・セッションでは、IPCC第4次報告書のためWCRP第3次結合モデル相互比較プログラム(CMIP3)の下に集約されたマルチモデルによる20世紀再現実験および21世紀シナリオ実験の中の諸現象の比

較解析を通じて、現象のメカニズムについての理解を深め、温暖化の影響でそれらが将来いかに変化・変調するかについての予測結果を解釈するための議論をしたい。

**世話人：**高菽 縁(東京大学気候システム研究センター)、木本昌秀(東京大学気候システム研究センター)、尾瀬智昭(気象研究所)、中村 尚(東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学)

### 2. 「温室効果ガス観測技術衛星 GOSAT「いぶき」の利用研究」

**趣旨：**2009年1月23日に打ち上げられた温室効果ガス観測技術衛星 GOSATは「いぶき」と名付けられ、現在も順調に観測を続けている。GOSATは宇宙航空研究開発機構(JAXA)、環境省(MOE)、国立環境研究所(NIES)の共同プロジェクトであり、亜大陸規模での二酸化炭素の発生・吸収強度の推定誤差を半減させることを最大の目標としている。これまでに初期運用試験を終了し、二酸化炭素とメタンデータについて、10月からの一般配布を前に、研究公募PIへのデータ提供が始められている。本セッションの前半では、センサーの打ち上げ後の基本性能や各解析レベルのデータの誤差、校正、検証に関する速報と今後の計画などについてプロジェクト関係者を中心に発表を行う。後半については、既に配布されたデータを用いた

研究発表の他、今後公開されるデータを用いる幅広い応用分野を含む研究発表も募集する。これには、CAI センサー等を用いたエアロゾルや雲に関する発表も歓迎する。本セッションを GOSAT データの有効性と発展性を広く議論する機会としたい。

**世話人：**今須良一（東京大学気候システム研究センター）、井上 元（総合地球環境学研究所）、横田達也（国立環境研究所）、中澤高清（東北大学）、近藤 豊（東京大学先端科学技術研究センター）、中島映至（東京大学気候システム研究センター）

### 3. 「気象情報・知識の伝達・普及」

**趣旨：**折角の気象情報や知識も、伝わり、理解され、活用されなければ意味がありません。特に、防災関連情報は、適時性、理解容易性が重要なポイントになると考えられますが、それぞれ奥深いものがあり、配慮と工夫が必要です。また、受け手側の理解力、活用能力が問題になります。

このセッションでは、気象情報の作成、伝達、関連知識の普及・訓練に携わる人々の、日ごろの研究成果が発表されることを期待しています。切り口としては、①情報作成時の配慮・工夫、②伝達に際しての配慮・工夫、③気象知識の普及及び気象情報等活用訓練の実施、といったところが挙げられますが、それぞれに様々な問題点があることでしょう。そうした問題点のありかや克服の仕方などについて発表をお願いし、その成果を共有することにより、今後の進展に繋げていきたいと考えています。

講演内容は、上記①～③のほか、他の複合した内容や研究の中間報告でもかまいませんので、多数の発表をお願いします。

**世話人：**石原 洋（福岡管区気象台）、石井和子（日本気象予報士会）、弘中秀治（宇部市防災危機管理課）、岩田 修（日本気象予報士会）、白石晶二（日本気象予報士会）

### 4. 「雷嵐 (Severe Storm) の観測的研究」

**趣旨：**昨年の夏、日本各地ではいわゆる「ゲリラ豪雨」といわれるような一時間あたり100ミリを越えるような降水を記録する事例が多数発生した。例えば、愛知県岡崎市では一時間に140ミリ、そして滋賀県甲賀市では同120ミリの降水を記

録した。また神戸市では、急激な河川の増水で小学生が犠牲になるという痛ましい事故も起きている。さらに福井県敦賀市では、突風によりイベント用テントが吹き飛ばされ、死者が出るという事故も起きている。

これらを引き起こす原因は、雷嵐 (Severe Storm) と呼ばれる現象で、降雹、豪雨、落雷、突風、竜巻といろいろな形となって我々に害を及ぼすとされている。そして、地球温暖化に伴ってこの Severe Storm が、我が国においても今後更に増加していくであろうと予想される。そこで本スペシャル・セッションでは、この Severe Storm を取り上げ、観測的研究の立場からの予測可能性などについて広く議論をしたい。

**世話人：**河崎善一郎（大阪大学大学院工学研究科）、楠 研一（気象研究所）、道本光一郎（防衛大学校）、牛尾知雄（大阪大学大学院工学研究科）

### 5. 「惑星大気の高多様性」

**趣旨：**太陽系惑星の大気現象にみられる多様性は、地球と異なる大気組成、雲、大気放射、地形といった様々な条件を反映している。近年、火星や金星、木星などを対象に、力学過程を中心とした大気モデリングが進展をみせているが、こうした物理過程についての理解や取り扱いは十分とはいえない。系外惑星の発見は、惑星のおかれうる条件がこれまで考えられてきた以上に多様であることを示しており、惑星大気の力学的研究においても物理過程の重要性が増しつつある。本セッションでは、惑星大気に関する力学や放射、化学、進化、形成など、幅広い分野における理論的あるいは観測・実験的研究の現状を共有したい。

**世話人：**高木征弘（東京大学大学院理学系研究科）、はしもとじょーじ（岡山大学大学院自然科学研究科）

### 6. 「国際極年 (IPY) 2007-2008 の成果と将来展望」

**趣旨：**国際極年 (IPY) 2007-2008 は、2007年3月から2009年3月までの2カ年にわたって実施されてきた。今回の IPY は 125 年前の IPY から数えて 4 回目にあたり、南極観測が開始された 50 年前の IPY、即ち国際地球観測年 (IGY) に比べると、日本では大きな事業が始められたわけでもなく、ま

た国民的熱狂に迎えられたわけでもなかった。これは、極域の科学が既に成熟期を迎えており、定常的に様々な観測・研究が実施されているためであろうか。しかし、こういう中で、実質的には多くの、新しい、エキサイティングな観測が南極や北極で行われてきた。日本気象学会においても、是非この機会に、IPY 2007-2008 のプロジェクトと

して、また関連して行われてきた興味ある観測・研究の成果を報告・紹介いただき、さらに IPY のレガシー（遺産）として今後のあるべき極域大気科学を考えていきたい。

世話人：山内 恭（国立極地研究所）、中島英彰（国立環境研究所）

## VI. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では以下の規定を満たすもの限り非会員が大会講演を行うことを認めています。

1. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員

の講演を認める（予稿に会員である共著者の氏名と所属を明記すること）。

2. ただし、スペシャル・セッションに関しては各世話人の判断にゆだねる。

なお、講演企画委員会としては、継続的に大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう強く要請します。

## VII. 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。支援を希望する方は、次の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2009a@metso.jp）に申し込んで下さい。

申込期限：2009年8月18日（火）

- 記入事項：1. 会の名称とテーマ  
2. 代表者の連絡先  
3. 希望日時・開催場所  
4. 予想参加人数  
5. 希望する支援内容

## VIII. 大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設の斡旋を予定しております。詳細については大会ホーム

ページ上でご案内致します。

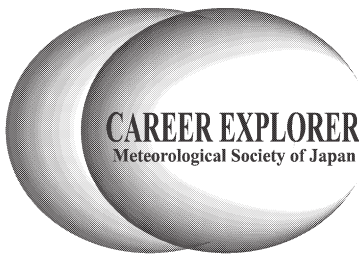
## IX. キャリアエクスプローラーロゴの試験的導入について

1. キャリアエクスプローラーロゴの趣旨

近年、社会問題化している若手・任期付研究者のキ

キャリア形成をサポートするために、日本気象学会では、キャリアエクスプローラーロゴを2009年秋季大会で試験的に導入します。これは、広く学術に貢献する人材の育成および活動支援の一貫として行うもので、会員が望ましいキャリア形成のために求職中の場合に、適職に出会うのをサポートします。(同様の取り組みが応用物理学会で2007年から行われています。)

## 2. キャリアエクスプローラーロゴ



講演予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます。カラーと白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取得できます。

## 3. 使用方法

ポストドクを含む任期付研究者や学生で求職中の会

員、またはそれに準ずる会員が講演する場合に、講演予稿および講演資料の中で、キャリアエクスプローラーロゴを使用できます。

1. 講演予稿：白黒ロゴを、タイトルの左側に、余白にはみ出さないよう適度な大きさに挿入してください。
2. 口頭発表：発表資料の任意の場所に分かりやすく表示してください。
3. ポスター発表：タイトル付近の分かりやすい場所に表示してください。

## 4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われます。口頭発表の時間内は、求職・求人に関する議論はご遠慮ください。
3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利益に対しても、日本気象学会は一切責任を負いません。
4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。